

市民のしあわせをめざす まちづくり その2

三次市まち・ゆめ基本条例 検証委員会を開催!

三次市では、平成18年度にまちづくりの大原則として「三次市まち・ゆめ基本条例」を制定し、4年に1回、本条例がまちづくりにふさわしいものであるか、市民の皆さんに参加していただき、検証しています。

平成21年度、平成25年度に続いて、今年度が検証の年にあたるため、三次市まち・ゆめ基本条例検証委員会を設置し、市民で構成された7人の検証委員により、過去4年間の成果の検証や今後の課題など、活発な意見交換が行われました。



検証委員会の様子

検証委員

名前	区分・所属等
委員長 岸田 立さん	三次市住民主自治組織連合会会長
副委員長 佐藤 明寛さん	三次商工会議所副会頭
委員 木津 広子さん	君田自治区連合会事務局長
委員 藤井 隆治郎さん	公葬委員
委員 西川 剛さん	公葬委員
委員 松山 眞由美さん	三次広域商工会会員
委員 矢野 好子さん	国際ソロブチミスト三次会員

◎ 地域振興課地域づくり係
☎0824-62-6395 ㊟0824-62-6235

「三次についての活動」

三次中学校 二年 石崎 帆夏さん

私が通っている三次中学校では、地域「三次」についての様々な活動をしています。その中で心に残っている活動は、三つあります。

一つ目はみよし学園一斉ボランティアです。私たちは小学生の時から三次町でボランティア活動をしており、暑い中、地域の清掃を行います。私は、草抜きや旭橋のらん干を磨いていたります時、地域の人に出会うことがあります。その時にあいさつをする、「ありがとうございます。お疲れ様、頑張ってください」と声をかけてくださり、その度に地域をきれいにすることの大切さやうれしさを実感します。

二つ目は、一年生の時に市の職員の方から話を聞いたことです。三次の祭りや特産物についてより深く知ることができました。また、グループごとに学んだことを新聞のようにまと

め、校内に掲示しました。私は、「カーブス」についてまとめました。歴史や生産者のこだわりについて調べることや地域の食品について詳しくなれました。

三つ目は職匠の方のお話を聞いたことです。職匠について、歴史や活動内容などたくさん知ることができました。私はあまり職匠の祭りに行ったことがないので、行ってみたいと思います。

私は中学校で地域「三次」について、たくさん学習活動を行いました。その活動を通して思ったのは、三次のことをあまり知らない人に、「三次」の良いところや歴史などの話をする、必ず「三次」の活性化につながるという事です。だから、私も周りの人に、「三次」について、たくさん話していきたいです。



「中学二年生の部」

「町をもっと元気にしよう」

三次中学校 二年 伊藤 音葉さん

私の住んでいる町は、人口が500人に満たない小さな町です。そこで地域のみなさんはたくさんの方に来てもらえようという思いで、学校の友達と一緒に、きれいな住宅をつくったり、町おこしに力を入れてもらいました。私はそんな姿を見て、自分でもできることはないかと考えてみました。私が考えたことは三つあります。

一つ目は、ボランティアです。理由は道に落ちているゴミを拾ったり、草をどることで、みんさんがすがすがしい気持ちになってくれると思うからです。

二つ目は、地域の行事に積極的に参加することです。理由は、自分の町で作られてい

る製品や食べ物を見たり、食べたりすることで、自分の町についてもっと深く知ることができそうです。学校の友達などを誘うことで他の地域の人も自分の町について知ってもらえることができ、元気な町だなと思ってもらえると思います。

三つ目は、地域の方との交流です。なぜなら、地域のみなさんと話をしたり、いろいろな物をつくったりすることで、地域のみなさんを元気づけることができると思うからです。地域のみなさんと一緒に自分の町をもっと元気にできる町にできるように、がんばっていかようと思います。

「地域のためにできること」

三次中学校 二年 片山 夏希さん

私は、自分が住む地域が好きです。学校の行事で行うボランティアは、自分たちの地域がきれいになることで、もうれしいし、楽しみでもある行事です。また、時には地域に住む高齢者の方たちが私たちの町の清掃活動をされておられ、それを見ると、とてもうれしく思います。その方たちも地域の一員なのだと感じました。

私は学校から家に歩いて帰る時によくペットボトルや食べ終わったタバコが捨てられているのを見かけ、その度に私は心が痛みます。「捨てたゴミは他の人が片づけてくれていいことを知っているのかな」

「地域の一員という責任をしっかりと行っている行動なのかな」といつも捨ててあるゴミを見て、疑問に思っていました。市民全員がゴミを捨てなくなるのはいいことになるのでしょうか。そのために私は、自分から積極的に様々なボランティア活動に取り組みたいです。ボランティア活動をしている所を見れば、地域の人は掃除をする大変さを知り、「今度からゴミを捨てるのはやめよう」と思ってくれる、と考えるからです。そして、ボランティアに参加してくださる地域の人を増えるのではないかと思います。最後に、私はゴミを捨てている人を見かけた声をかけたり、「自分は地域の一員だ」という気持ちを持ってボランティア活動に参加し、多くの人に自覚できる地域にしたいと思っています。

ぼくたち
わたしたちは
地域づくりを
こう見ています



